

第12回 銀華文学賞発表

しばらくお休みしておりました銀華文学賞を、二〇一九年、四年振りに再開させていただきました。長い中断にもかかわらず、日本全国より二〇九篇の多数の御応募をいただきました。厚く御礼申し上げます。

予選選考を経た作品の中から、大高雅博・八覚正大・小浜清志・五十嵐勉の選考委員による厳正な審査の結果、以下の通り受賞作が決定いたしましたので、ここに発表させていただきます。

誌面の都合により、奨励賞などの作品は次号以降に順次掲載させていただきます。

第十二回銀華文学賞授賞式・祝賀会は、申し訳ございませんが今年も省略させていただきます。賞状・賞品などは後日直接御本人宛てに送らせていただきます。御了承ください。なお銀華文学賞は明年、年齢を四十歳からに繰り下げさせていただきます、四十歳未満の方は文芸思潮新人賞を設けて、新たに募集する予定です。どうぞまた奮って御応募ください。お待ちしております。

銀華文学賞

最優秀賞

「最後の帰郷」

西山慶尚

(愛媛県新居浜市)

「向日葵」

森本あさ子

(愛知県豊橋市)



優秀賞

「再出発」

内田東良

(東京都世田谷区)

「銀色の虫」

土田ひろし

(静岡県沼津市)

「クチボソ暮色」

井上一志

(東京都八王子市)

「キム・ジョンウン先生、

革命の日は近いようです。」

倉木基志

(宮城県仙台市)

奨励賞

「いいね！」

牧 康子

(東京都杉並区)

「檸檬の木のある風景画」

しのぶ憂一

(静岡県伊東市)

「幻想家族」

辻本哲次

(福岡県田川郡)

「囀」

大新健一郎

(兵庫県西宮市)



銀華文学賞優秀賞メダル

佳作

- 「一分」 高岡啓次郎
「一九七一年・雨空の花火」 立野幸雄
「新しい道」 森千恵子
「一粒の涙」 近藤幹夫
「那覇離愁」 山本憲明
「撃竹」 西田信博
「雨、嫌いやねん」 椿山 滋
「一九六五 夏」 藤井典央
「別れのかたち（キンズの根）」 大江純子
「老春の余韻」 路夢
「あじあ号の時代」 朝川 彪
「懐かしい足音」 梶川洋一郎
「もすけ」 坂口保典
「くしゃみ」 阿部千明

「バージンロード」

是田一作

「村岡はぼくに」

河野つとむ

「明日への帰還」

勢 隆二

「トカゲの頭切り」

竹中 寛

「オールドローズ荘」

枝 道子

「刹那」

樽井弘志

「ある男の物語」

上野雄三

「今井秀二の手記 暗路」

田中 豊

歴史小説賞佳作

「血と土と―豊後杵築藩農民―揆始末―」
笠置英昭

「南部の老臣」

久保協一

入選

- 「ねえちゃん」 安部としき
「髑髏と蝶」 井本元義
「最後の敵」 南 理維
「二枚の絵」 山崎人功
「天秤」 本田奈緒美
「別れの理由」 松井 憲
「ビーの約束」 ほそやまこと
「蜘蛛の網」 鷺津 勇
「さよならホームラン」 内村今日平
「紫陽花はつなぐ」 安保美智子
「無題」 足立京子